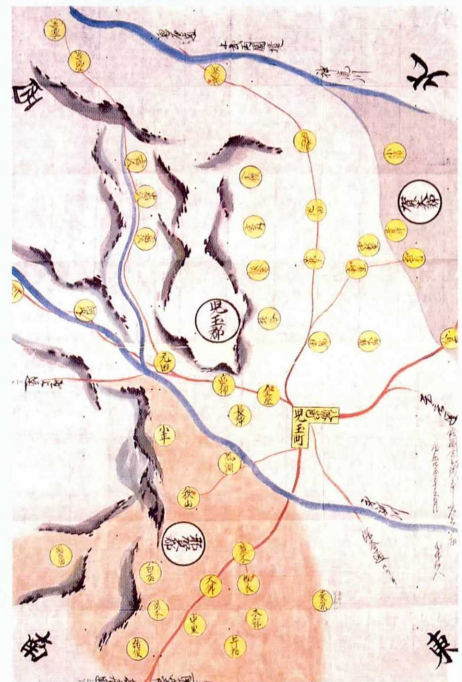




平成9年度第2回収蔵文書展

# 秩父・児玉

## 地方の文書



埼玉県立文書館

## 開催にあたって

埼玉県立文書館では、昭和44年の開館以来文書記録の収集・保存を進めるとともに、皆様が気軽に史料を閲覧できる態勢を整えてまいりました。その結果現在では、古文書・行政文書・地図をはじめとする収蔵史料はおよそ60万点、年間の利用者数は5,000人にのぼります。また当館では教育普及活動及び史料公開の一環として年3回の収蔵文書展を開催し、テーマに沿って収蔵史料の紹介を続けています。特に今回の展示では、県西北に位置する秩父・児玉地方にスポットを当てました。

境界を接する両地方は、山間・丘陵・平野部から成り立っています。残された史料は、水害とたたかう苦悩、山と共存して生きる知恵、厳しい年貢や諸役への抵抗など、起伏に富んだ地域を生き抜いた人々の様々な姿を伝えています。天変地異に翻弄され、重い負担に立ち向かう、そうした姿は現代の我々と相通じる面があるともいえましょう。

なお、昨年度新たに埼玉県指定文化財となりました、秩父地方の戦国時代を語る史料として極めて貴重な逸見家文書を、今回特別公開いたします。

最後に、本収蔵文書展を開催するにあたり貴重な史料を御提供いただきました寄贈・寄託者の方々、及び御協力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成9年10月

埼玉県立文書館長

### □凡 例

- 1 本書は、埼玉県立文書館で平成9年10月18日から12月14日まで開催される第2回収蔵文書展「秩父・児玉地方の文書」の展示解説書である。
- 2 会期中に展示替えを行うため、本書に掲載されている史料でも期間により展示されていない場合がある。
- 3 本書掲載の番号は、巻末の展示史料一覧の番号と同じだが、実際の展示史料とは必ずしも一致しない。
- 4 本文中〔 〕が付いた史料名は、適切な表題及び年代を後から与えたもので、それ以外は原題のとおり史料名を使用した。なお、太田部村については「太田部」で統一した。
- 5 本書掲載の写真のうち、本館の収蔵史料以外のものについては、参考としてその旨を明記した。なお、協力者及び協力機関については、巻末に芳名を記した。
- 6 本書の編集及び執筆は、古文書課学芸員加藤かな子が担当した。

### □表紙写真

上〔秩父郡太田部村絵図〕

下〔組合村絵図控〕慶応4年（1868）



1〔秩父郡矢納村絵図〕 元禄8年（1665）

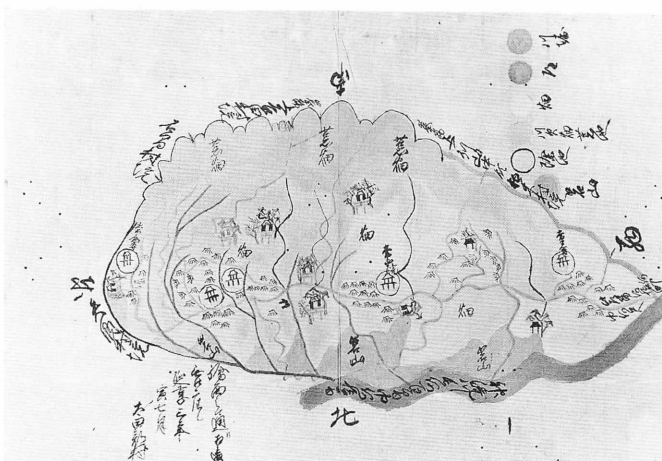
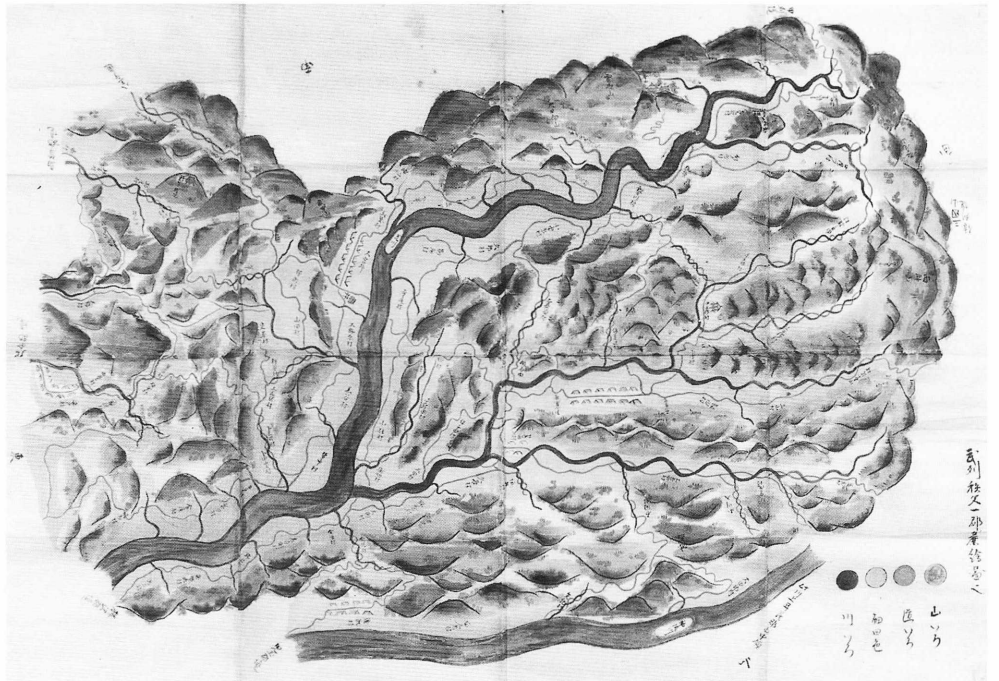
矢納は現在児玉郡神泉村の一部ですが、江戸時代には秩父郡に属する村のひとつでした。

# 秩父地方

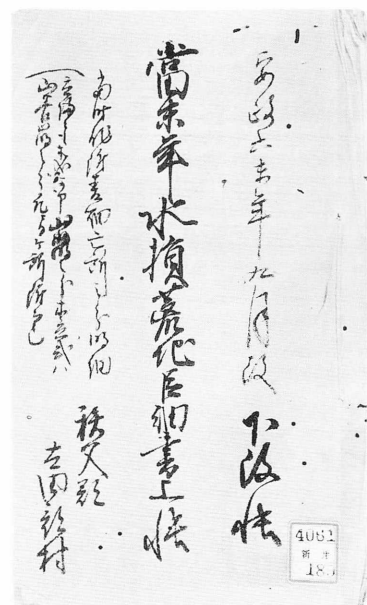
県西部に位置する秩父地方は、山々がそびえる中心に、方形の秩父盆地を内包した地域です。水田耕作に適さないこの地域の経済基盤は、鉄・銅などの鉱物資源の開発と、絹・漆・紙などの商品作物の生産に求められました。またこの地方は、武甲・両神・三峰という秩父三山や、秩父札所巡りの参詣者が往来する信仰の地でもありました。今も秩父地方に残る独自の文化は江戸時代に形成され、花開いたといえるでしょう。

3 〔秩父一郡倉絵図〕

江戸時代、秩父郡の範囲は今よりも広く、現在の入間・比企・大里・児玉郡の一部を含む広大な地域で、そのほとんどは山地でした。当時の絵図からは、荒川・赤平川・神流川をはじめとする河川が、山の間を縫うように流れている様子がわかります。また絵図には、山と山、あるいは山と川に挟まれた狭い地域に、集落が営まれている様子が描かれています。



8 〔秩父郡太田部村絵図〕延享3年（1746）

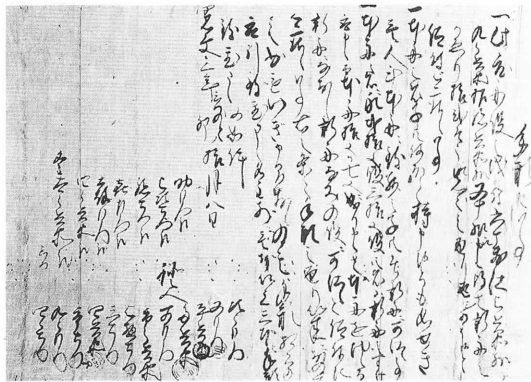


9 当未年水損荒地巨細書上帳 安政6年（1859）

山地ゆえ、普段は水を確保することが難しい秩父地方ですが、いったん大雨が降ると鉄砲水による被害に遭うことも少なくありませんでした。山や崖が崩れ、道が塞がれ、貴重な田畑や家屋敷が一瞬のうちに土砂に流されるという状況は、平地における水害とは異なります。



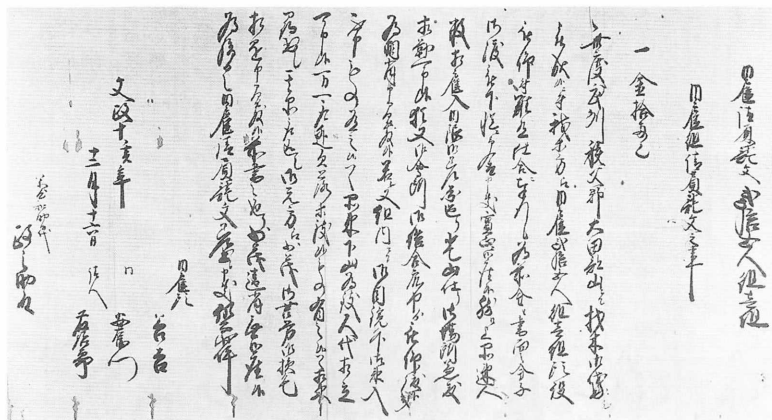
太田部村（現、吉田町）の検地帳をみると上田がなく、中・下・下々田ばかりです。こうした状況は、江戸時代初期からほとんど変わらなかったことが、残された古文書からわかります。人々は生産力が低い土地に適した絹・綿・漆・紙などの作物を生産し、それらを売って生活の糧としていました。現在も秩父の特産品に数えられる絹や紙は、こうした自然環境の中から生み出されたのです。



17 手形之事（秩父郡太田部村紙舟役二付） 寛文3年（1663）



6 武州秩父郡太田部村御検地水帳 寛文2年（1662）



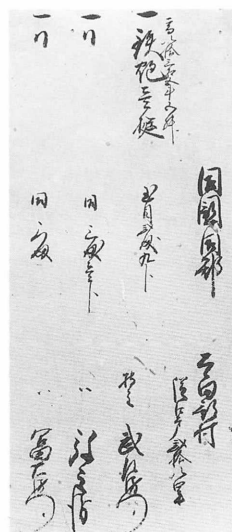
13 日雇組請負証文之事（太田部村山材木伐出二付） 文政10年（1827）



16 山漆之木書上帳 元文元年（1736）



11 差上申獵師鉄砲証文之事 明和9年（1772）

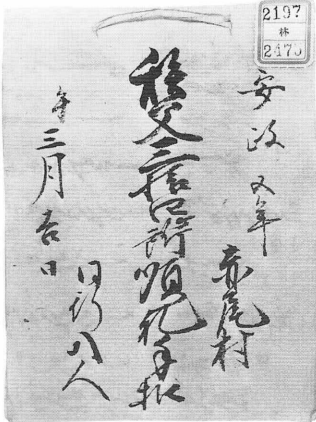


10 武蔵国秩父郡村々獵師鉄砲持主当時名前改帳 明和5年（1768）

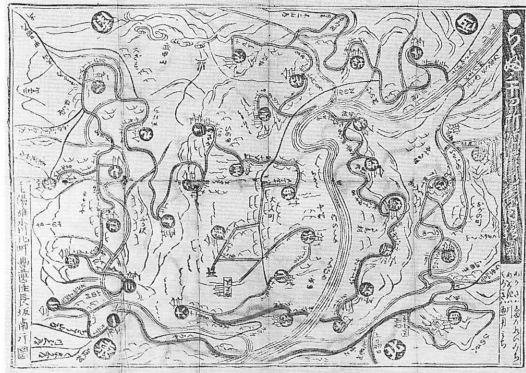
山地の生活では、通常厳禁されていた鉄砲の所持が認められていました。鳥獣による農作物への被害防止や狩猟など、鉄砲が山間部における生活保全に不可欠であったためです。当時鉄砲の管理は厳しく、鉄砲証文には持主の名前や鉄砲の員数、寸法などが細かく記入されています。



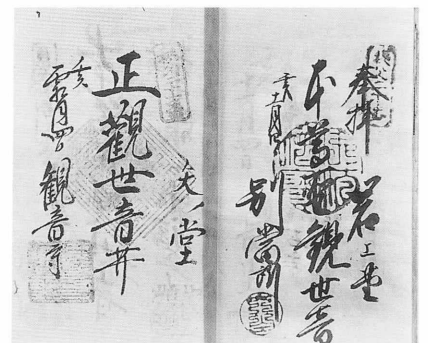
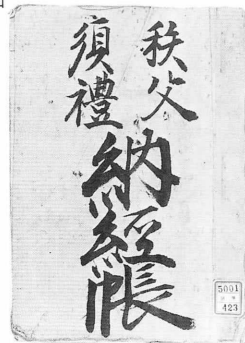
秩父大宮を中心に四方に伸びている道筋を総称して、秩父往還といいます。秩父往還には、江戸を起点に伸びているもの、中山道や甲州街道などに連絡するものなど、いくつかの道筋がありました。この往還は秩父札所や秩父三山の参詣道、秩父絹を扱う商人たちの往来道、寛文3年（1663）の忍藩秩父代官所設置以降は藩の公用道として、重要な役割を果たしました。



22 秩父三十四ヶ所順礼手控  
安政5年（1858）



19 ちぶ三十四所順礼道案内絵図



20 秩父巡礼納経帳 文久3年（1863）

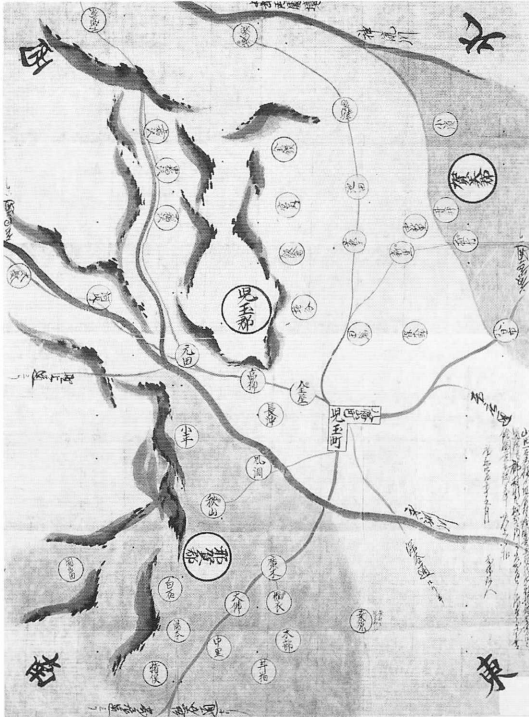
若林嘉陵は、宝暦9年（1759）に秩父郡金沢村（現、皆野町）に生まれ、寛政年間当地に私塾「若林塾」を創設した人物です。嘉陵は長じてから江戸に出て、儒学者井上金峨の門下生となりました。やがて嘉陵は伊藤仁斎の学を敬慕し、堀川学に傾倒するようになります。その後故郷金沢村に帰り漢方医のかたわら漢学塾を開き、近隣の子弟の教育にあたりました。嘉陵は終生後進の教化に努め、天保10年（1839）81歳（一説に78歳）で没しています。



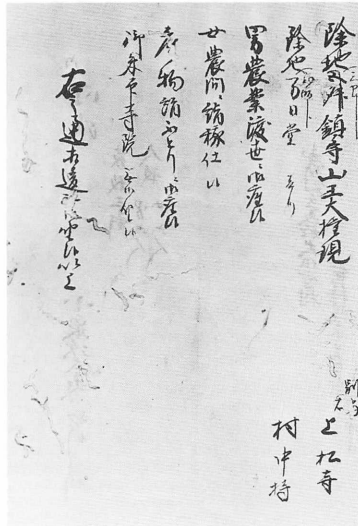
29.31.32 游龍園雜記

# 児玉地方

児玉地方は秩父山地から連なる丘陵部、及び関東平野から成る地域です。上野国と国境を接するこの地方は、戦国時代から城下町として栄えた八幡山、江戸時代に中山道の宿駅となった本庄宿を中心とした畑作地帯でした。国境を流れる神流川は、利根川の支流のひとつで、丘陵から関東平野に出ると川幅を広げ、扇状地を形成しています。この川は、水害や旱害により流域に住む人々の生活を近年まで苦しめてきました。児玉地方の人々の歴史は、神流川とのたがいの歴史といっても過言ではないでしょう。



35 〔組合村絵図控〕 慶応4年(1868)



37 村明細帳 安政2年(1855)

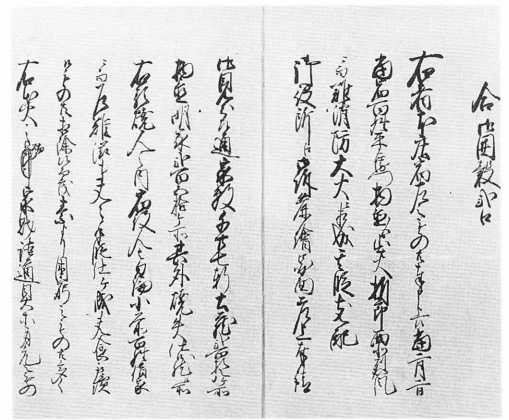
畑地が多い児玉地方では、絹織物などの繊維類や、煙草・漆などの商品作物の生産も行われていました。特に煙草は上州産と同種の良品として、江戸にまで売りに出されています。なお、史料37に産物として記されている「ふとり」とは「太織」、つまり粗い絹糸で平織した絹織物のことです。

## 中山道本庄宿

本庄宿は大名行列の通行も多く、2・7の日の六斎市は周辺の農村からもたらされた品々でにぎわう、中山道最大の宿場町にまで発展しました。また、文人墨客も集まり、近隣の文化の中心として栄えました。しかし、弘化3年(1846)2月2日に起きたいわゆる「伊勢屋火事」により、宿場の大半が焼けてしまいました。その状況を記した文書から、被害の甚大さが伝わってきます。



41~43 本庄宿で弘化3年に起きた「伊勢屋火事」関係資料

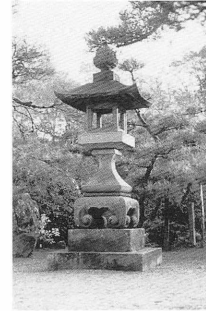


43 岩鼻御陣屋御困切御拝借願 弘化3年(1846)

英泉は、水を満々とたたえる神流川の遠方に秩父の山並みを配し、関東平野の雄大な風景をみごとに浮世絵に描き出しています。人々に豊かな恵みを与えた神流川ですが、一方でその乱流により人々を悩ませました。神流川の水害により元禄15年（1702）には肥土村（現、神川町）が上野国から武蔵国に組み込まれ、弘化3年（1846）の洪水で流路が東遷した時には流出を免れた下流の村々が上野国新町宿に移転しています。

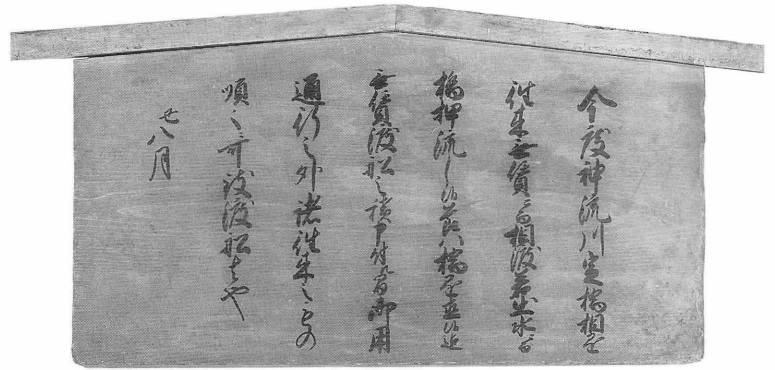


44 英泉画／支蘇路ノ本庄宿 神流川渡場（参考写真）



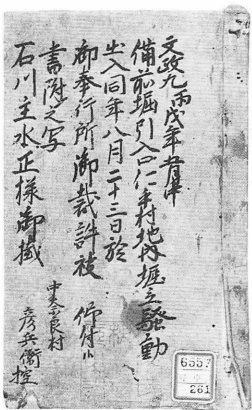
本庄宿の商家戸谷家が、文化年間に旅人の安全祈願のために建立したもので、今も常光寺（上里町）に残されています。

45 神流川渡場の常夜灯（参考写真）

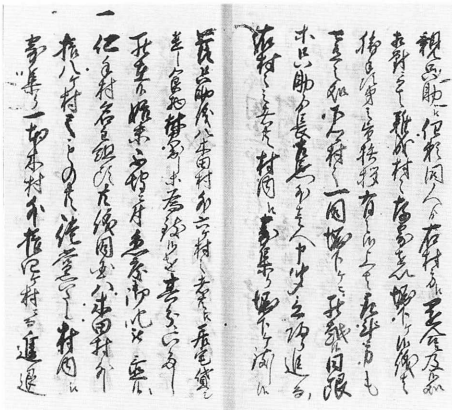


46 高札（神流川無賃渡二付）天明元年（1781）

戸谷三右衛門は、自ら渡場の維持管理費を調達するとともに、通行料も無料にしたいと道中奉行に願い出ました。これは、その申し出が許可されて道中奉行から出され、川岸に掲げられたと伝えられる高札です。



52 〔備前堀引入口仁手地内堀立騒動一件〕 文政9年（1826）



47 乍恐以書付御訴訟奉申上候（用水分水口塞候出入）寛政5年（1793）

神流川流域の人々はこの川に八堰を設け、大切な用水として維持・管理を行っていました。なかでも九郷用水は、児玉地方を西南から北東に縦断し児玉・賀美郡22か村の田畑を潤す、約15kmに及ぶこの地方最大の用水路でした。また児玉郡仁手村（現、本庄市）には、幡羅郡弥藤吾村（現、妻沼町）に至る備前渠用水の堰が設けられていました。どちらの用水でも、上流と下流で水を巡る争論が繰り返されました。



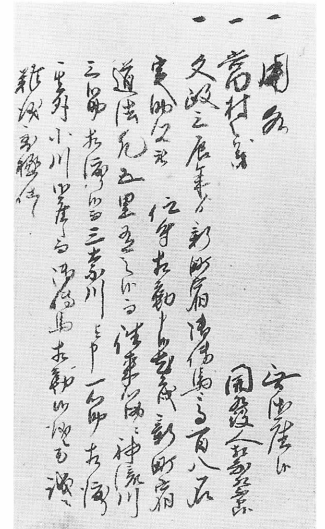
# 助郷

助郷とは、本来宿場近郊の農民に課された労役のひとつでした。しかし、参勤交代などによる交通量の増大にともない、各種名目の助郷が次々と設定されるようになりました。助郷には、古くから義務付けられていた定助郷、定助郷の郷村が疲弊した際に代わりを勤めた代助郷、特別の大通行の際に臨時あるいは一定年限勤役した増助郷などがあります。

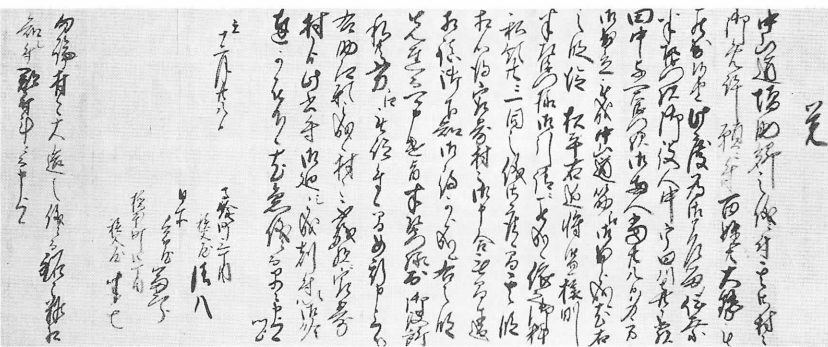
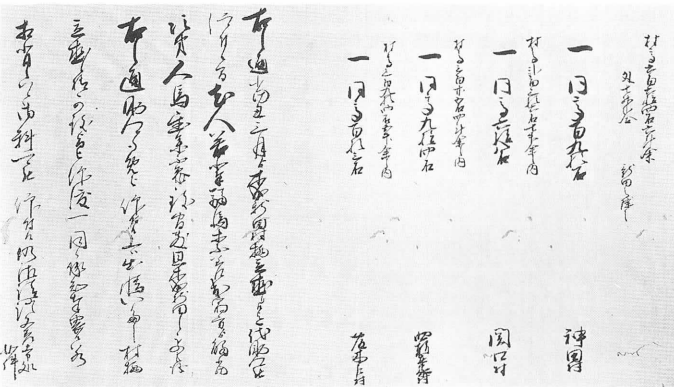


57 広重画／木曾街道六十九次之内新町（参考写真）

62 村内明細帳 文政5年（1822）  
上阿久原村（現、神泉村）では、文政3年（1820）以降新町宿の定助郷を勤めています。史料62にはその距離およそ5里に及び、往来には神流川や三奈川などの川を幾筋も渡るため大変難儀であるということが、切々と書かれています。

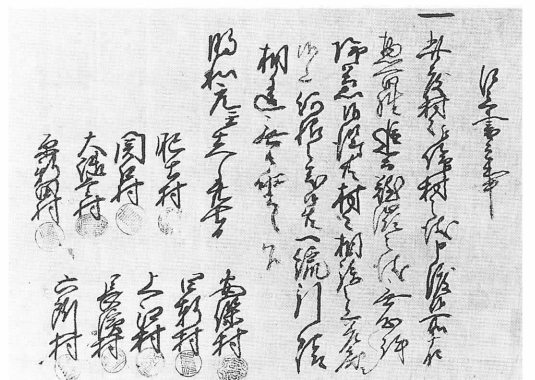


60 差上申一札之事（児玉郡四軒在家村他代助郷承知） 寛政5年（1793）  
四軒在家村（現、神川町）では、寛保3年（1743）以降森新田村（現、群馬県藤岡市）の上野国新町宿への代助郷免除を願い出てきました。しかしついにこの年、他の村々4村と分割して、代助郷を請けざるを得なくなりました。その後文政14年（1831）にこの代助郷は免除されましたが、文久3年（1863）に今度は本庄宿への代助郷となっています。



66 覚（中山道増助郷） 明和元年（1764）

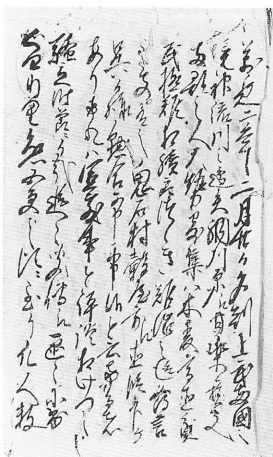
明和元年閏12月から翌年の正月にかけて起きた伝馬騒動は、農民が過重な助郷負担に耐えきれず、幕府に増助郷の免除を要求した一揆です。武蔵国では児玉郡関村の名主兵内が中心となり、身馴川の河原に集結した農民達は巨大な勢力となって中山道を江戸に向かい、各地で打ちこわしを続けました。その後幕府に鎮圧され兵内は死罪、武蔵・下野・上野・信濃4か国で約360名が処罰を受けました。死罪となった兵内の供養塔は、今も美里町に残されています。



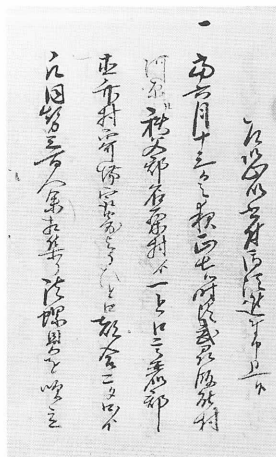
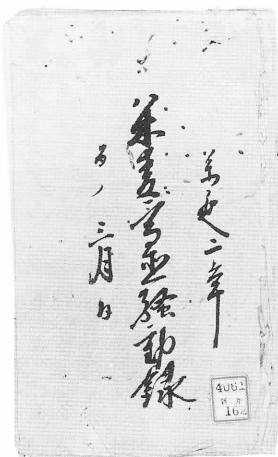
65 口上書之事（百姓帰村） 明和元年（1764）

# 新時代の幕開け

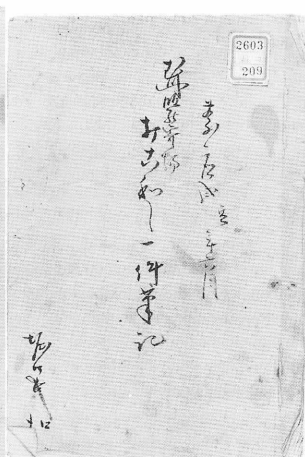
黒船来航、そしてそれに次ぐ開国が契機となった幕末の混乱した社会経済状況の中で、全国各地で一揆や打ちこわしが頻発します。武蔵国も例外ではなく、秩父・児玉郡内でも飯能や本庄宿をはじめとする各地で騒動が起きました。やがて慶応3年(1867)12月明治政府が発足し、翌年から新県の設置、版籍奉還、廃藩置県と次々と新たな施策が断行されていきます。新時代の到来とともに、秩父・児玉地方でも新道設置などの交通網の整備を通して文明開化の波が押し寄せ、近代化へのあゆみが加速しました。



69 米麦高値騒動録 万延2年(1861)



71 武州飯能寄場打ちこわし一件筆記 慶応2年(1866)



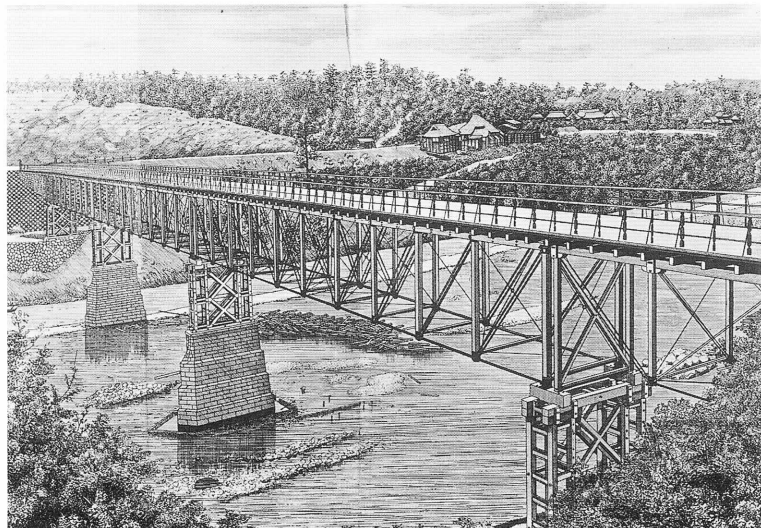
鬼石町(現、群馬県)打ちこわしは、万延2年に秩父郡太田部・矢納村をはじめとする武蔵側と上野側の農民により、物価高騰に対する米麦の値下げを要求しようとしたものです。この一揆は結局未遂に終わりましたが、慶応2年秩父郡名栗村(現、飯能市)から発生した打ちこわしは、南は八王子から北は上野国藤岡・新町にまで及ぶこの地方最大の農民一揆となりました。この一揆は武州一揆、または武州世直し一揆ともよばれています。



72~74 本庄宿打ちこわし及び東山道先鋒総督府関係資料 慶応4年(1868)

町村名	戸数	寄附金	全金額	戸当り	摘要
大宮郷	八三九	三〇四	八〇〇〇〇	三六八	九五五
小麻野町	三一五	一〇〇	二〇〇〇〇	一六四	六四一
下吉田村	五七五	一五〇	一五〇〇〇	一六四	二九〇
児玉町	四四一	一六六	八八二四	六〇二	一九六九
八幡山町	一一〇	五〇	三〇〇〇〇	四一七	二五〇
本庄宿	一八〇	二〇〇	八〇〇〇〇	一六九	六七八
太駄村	一一〇	二九七	八三三六	一七三	七一一
河内村	五〇	二九七	四二四八	四三三	八四〇
寺尾村	二一三	二九二	八〇〇〇〇	一五四	三七五六

78 児玉秩父間新道寄付人夫全金額一戸当り摘要 明治19年(1886)

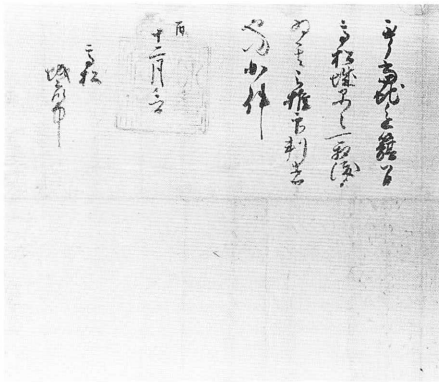


75 初代秩父橋 明治16年(1883)

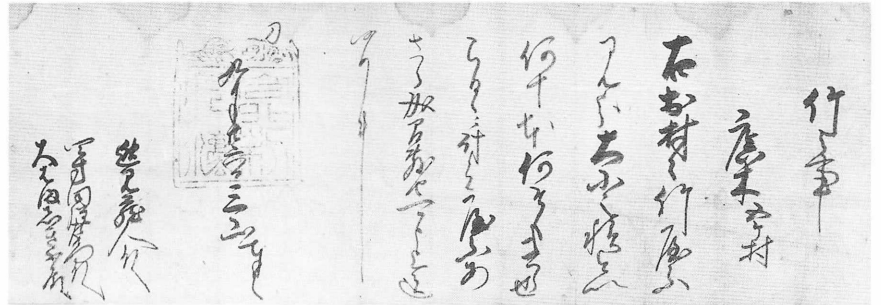
トピック

# 秩父・児玉地方 の中世文書

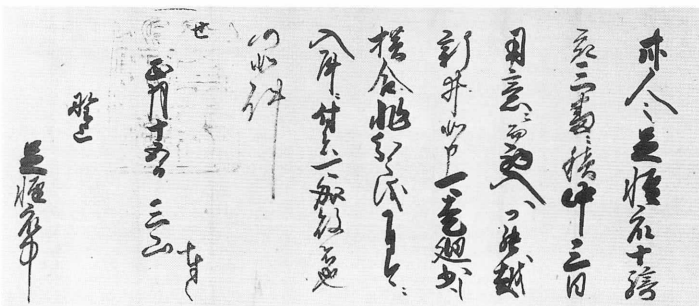
当館では、秩父・児玉地方に残された58点にのぼる中世文書を収蔵しています。その内訳は、秩父地方の斎藤（古）家文書10点、逸見家文書9点、児玉地方の金井家文書2点、館蔵の安保文書37点です。鎌倉時代から戦国時代（14世紀前半～16世紀後半）の文書から成る安保文書、永禄から天正期（16世紀後半）の文書が主体の斎藤（古）・逸見・金井家文書は、いずれも当地方の歴史を語るうえで大変貴重な資料です。



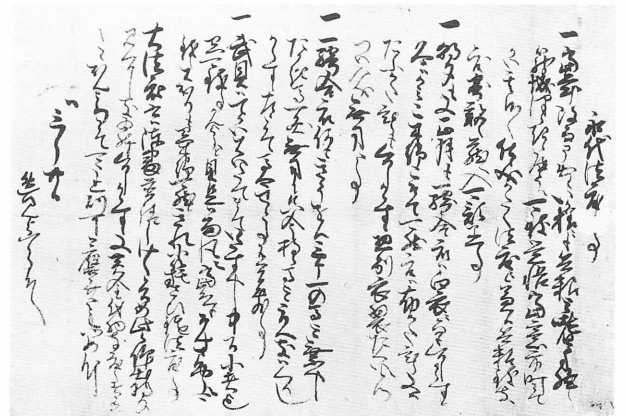
79 北条家朱印状 酉〔永禄4〕(1561)



82 北条氏邦朱印状 寅〔永禄9〕(1566)



86 北条氏邦朱印状 丑〔永禄8〕(1565)



85 北条氏邦朱印状 い〔天正2〕(1574)

## 展示史料一覧

○は、埼玉県指定文化財

展示史料名	年代	文書番号または所蔵者	備考
□プロローグ			
1 〔秩父郡矢納村絵図〕	元禄8(1695).6	川鍋家4	
2 差上申一札之事(山境論争ニ付)	文化13(1816).6	浅見家1681	
□秩父地方			
3 〔秩父一郡絵図〕		森田家8069	
4 〔秩父郡太田部村絵図〕		新井家3311	
5 武州秩父郡太田部村御検地水帳	寛文2(1662).8.20	新井家238	
6 武州秩父郡太田部村御検地水帳	寛文2(1662).8.20	新井家239	
7 秩父郡八拾四ヶ村〔高帳〕	文化11(1814).正	新井家294	
8 〔秩父郡太田部村絵図〕	延享3(1746).7	新井家3295	
9 当年未年水損荒地巨細書上帳	安政6(1859).9	新井家189	
【山に生きる】			
10 武蔵国秩父郡村々獵師鉄砲持主当時名前改帳	明和5(1768).3	新井家685	
11 差上申獵師鉄砲証文之事	明和9(1772).7	新井家2030	
12 為取替申議定証文之事(秩父郡太田部村近辺材木御買上木ニ付)	寛政7(1795).4	新井家2735	
13 日雇組請負証文之事(秩父郡太田部山村木伐出ニ付)	文化10(1827).12.16	新井家1961	
14 未蔵太田部村御年貢請取事	寛永20(1643).12	新井家1614	
15 秩父郡芦ヶ窪村外六ヶ村櫛漆植付免除願	安政5(1858).9.10	森田家5950	
16 山漆の木書上帳	元文元(1736).10	山下氏収集23	
17 手形之事(秩父郡太田部村紙舟役ニ付)	寛文3(1663).10.8	新井家2213	
【秩父往還-巡礼と絹の道-】			
18 三峰山全図		野口家2008	
19 ち、ぶ三十四所順礼道案内絵図		武笠(昇)家264	
20 秩父順礼納経帳		諸井家423	
21 納経帳(秩父三十四箇所巡礼)	文久3(1863).10	鬼久保家3382	
22 秩父三十四ヶ所順礼手控	文化7(1810).7	林家2475	
23 秩父行記	安政5(1858).1	文書館収集96	
24 秩父道中記	安政3(1856).5	野中家1605	
25 秩父三十四所〔御詠歌〕	嘉永元(1848)	会田家1855	
26 〔秩父一番四萬部寺御札〕(神社仏閣納経帳のうち)	嘉永7(1854)	福島(卓)家21	



27	三峰山道中記図絵(参考写真)		宮代 弘氏所蔵	埼玉県立博物館提供
28	観音靈験記(参考写真)		埼玉県立博物館所蔵	埼玉県立博物館提供
【次代を育む一若林嘉陵一】				
29	游龍園雜記(三国史抜抄)		若林家 1 6 1	
30	游龍園雜記(仏説抜抄)		若林家 1 6 2	
31	游龍園雜記(史評抜抄)		若林家 1 6 3	
32	游龍園雜記(史記評他)		若林家 1 6 4	
33	游龍園和門示言叙	文政11(1828).10	若林家 2 0 7	
34	嘉陵先生墓銘		若林家 2 0 6	
□見玉地方				
35	〔組合村絵図控〕	慶応4(1868).9	浅見家 1 4 9 4	
36	〔下阿久原村絵図〕		浅見家 1 4 7 6	
37	村明細帳	安政2(1855).3	松原家 3 9	
38	村明細之帳	明和元年(1764).閏12	浅見家 7	
39	手形之事(見玉郡下阿久原村權漆年貢上納二付)	寛文6(1666).9.21	浅見家 8 6 1	
【中山道本庄宿】				
40	現在の本庄宿田村本陣跡(参考写真)			本庄市立歴史民俗資料館提供
41	本町類焼人男女老若下調帳	弘化3(1846).3	諸井家 6 7	
42	岩鼻御陣屋へ中山道本庄宿類焼人之内極難渋之者夫食拝借願家数人別書上	弘化3(1846).3	諸井家 6 2	
43	岩鼻御陣屋御用糧御拜借願	弘化3(1846).3	諸井家 6 3	
【川とのたわかい】				
44	英泉画ノ支蘇路ノ駅本庄宿 神流川渡場(参考写真)		埼玉県立博物館所蔵	埼玉県立博物館提供
45	神流川渡場の常夜灯(参考写真)		大光寺所蔵	上里町教育委員会提供
46	高札(神流川無賃渡二付)	天明元(1781)	戸谷家一一	
47	乍恐以書付御訴訟奉申上候(用水分水口塞候出入)	寛政5(1793).7	松原家 3 1 6	
48	乍恐口上書ヲ以奉願上候(七本木村組頭用水路水論二付)	寛政5(1793).8.17	松原家 3 0 4	
49	差上申一札之事	安政2(1855).12	松原家 4 6 0	
50	備前堀絵図面(写)	文政12(1829).8	野中家 8 2 3 2	
51	〔備前堀分限絵図〕		備前渠一一	
52	〔備前堀引入口仁手地内堀立騒動一件〕	文政9(1826)	野中家 2 6 1	
53	備前堀開復日記	文政10(1827)	備前渠 2	
54	〔届書〕(利根川堤切)	(年未詳)11.19	松原家 6 2 9	
55	〔曾我豊後守方一面申渡候御届〕(利根川堤切疑惑居宅打ちこわし)	(年未詳)11.19	松原家 3 0 2	
56	〔十六ヶ村徒党一見豊後守申渡二付御用〕	(年未詳)11.19	松原家 5 6 9	
【宿場を支える一助郷一】				
57	広重画ノ木曾街道六十九次之内 新町		埼玉県立博物館所蔵	埼玉県立博物館提供
58	乍恐以書付御願申上候(見玉郡四軒在家村代助郷差村免除願)	寛保3(1743).閏4	松原家 1 8 8	
59	乍恐以書付御訴訟申上候(見玉郡四軒在家村代助郷二付)	宝暦5(1755).2	松原家 4 4 2	
60	差上申一札之事(見玉郡四軒在家村他代助郷承知)	寛政5(1793).2	松原家 2 0 6	
61	御伝馬御請書上帳	文久3(1863).11	松原家 1 1	
62	村内明細帳	文政5(1822).11	浅見家 2 8	
63	御伝馬御免除願一件	文政13(1830).4	浅見家 2 3	
64	中山道増助郷一件	明和元(1764).9	奥貫家 3 6	
65	口上書之事(百姓堀村)	明和元(1764).閏12.27	松原家 5 2 1	
66	覚(中山道増助郷)	〔明和元(1764)〕.閏12.28	松原家 3 2 5	
67	差上申一札之事(惣訴取止め届村請書)	〔明和元(1764)〕.閏12.30	林家 6 6 0 9	
68	「関兵霊神」の百回忌供養碑(参考写真)			岡本幸男氏撮影
□エピソード ー新時代の幕開けー				
69	米麦高値騒動記	万延2(1861).3	新井家 1 6 2	
70	〔上州鬼石の打ちこわし〕	慶応2(1866).5	浅見家 2 1	
71	武州飯能寄場打ちこわし一件筆記	慶応2(1866).6	堀口(久)家 2 0 9	
72	徒党打毀二付三ヶ度御人数飯料其他諸入用帳	慶応4(1868).3	諸井家 1 9 6	
73	打毀防御入用帳	慶応4(1868).3	諸井家 1 9 7	
74	東海道御先鋒御総督府附会計方御触書請印帳	慶応4(1868).4	諸井家 9 2	
75	秩父新道に架けられたトラス橋(道路改良二付願のうち)	明治16(1883).6	高野(周)家 7 6	
76	初代秩父橋の橋台と二代目秩父橋(参考写真)			埼玉県立博物館提供
77	現在使用されている三代目秩父橋(参考写真)			
78	見玉秩父間新道寄付入夫全金額一戸当摘要	明治19(1886)	行政文書 明 1 7 3 2	
□トピック秩父・見玉地方の中世文書				
○79	北条家朱印状	西〔永禄4〕(1561).12.3	逸見家 1	9点1巻 卷子装
○80	乙千代判物	永禄5(1562)10.10	逸見家 2	〃
○81	乙千代判物	(年未詳)12.18	逸見家 3	〃
○82	北条氏邦朱印状	寅〔永禄9〕(1566).9.2	逸見家 4	〃
○83	北条氏邦朱印状	永禄12(1569).9.22	逸見家 5	〃
○84	北条氏邦判物	(年未詳)8.10	逸見家 6	〃
○85	北条氏邦朱印状	い〔亥〕〔天正2〕(1574).3.20	逸見家 7	〃
○86	北条氏邦朱印状	丑〔永禄8〕(1565).正.15	逸見家 8	〃
○87	乙千代書状	永禄5(1562).4.2	逸見家 9	〃
88	北条氏邦朱印状(複製)	永禄7(1564).6.18	埼玉県立文書館所蔵	原資料、斎藤(古)家3 軸装
89	北条氏邦朱印状(複製)	戊辰〔永禄11〕(1568).12.6	埼玉県立文書館所蔵	原資料、斎藤(古)家5 軸装
90	安保光泰讓状(複製)	曆3(1340).正.24	埼玉県立文書館所蔵	原資料、埼玉県立文書館所蔵 安保6 卷子装
91	安保光泰讓状(複製)	曆3(1340).8.22	埼玉県立文書館所蔵	原資料、横浜市立大学図書館所蔵 卷子装
92	足利基氏軍勢催進状(複製)	康安2(1362).9.15	埼玉県立文書館所蔵	原資料、横浜市立大学図書館所蔵 軸装
93	足利持氏御判御教書(複製)	応永25(1418).3.28	埼玉県立文書館所蔵	原資料、横浜市立大学図書館所蔵 軸装

## 協力者・協力機関(敬称略)

会田 真言／浅見秀夫／新井永一／池田伸子／岡本幸男／奥貫五平次／鬼久保 清／金子 款／川鍋 巖／高野周助／戸谷圭一郎／野口キヌ子／野中彦平／長谷川 勇／林 信行／福島 卓／逸見浩一／堀口洋一郎／松原辰雄／宮代 弘／武笠昇司／森田 洋／山下守昭／若林隆治  
上里町教育委員会／埼玉県立博物館／大光寺／本庄市立歴史民俗資料館

## 利用案内

開館時間 9 : 00～17 : 00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日、毎月末日、年末年始

特別整理期間(春秋10日間以内)

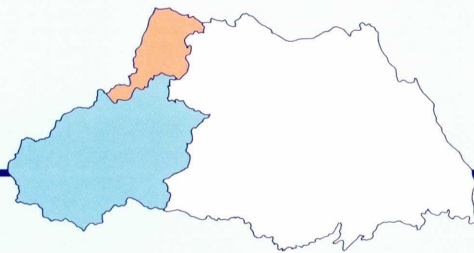
交通案内 J 京浜東北線・高崎線・宇都宮線：浦和駅西口下車徒歩12分

J 埼京線：中浦和駅下車徒歩15分

浦和駅より国際興業バス(大宮駅行)：県庁裏下車



# SAITAMA PREFECTURAL ARCHIVES



収蔵文書展 秩父・児玉地方の文書

発行 1997年10月

編集・発行 埼玉県立文書館

〒336 浦和市高砂4-3-18

TEL 048-865-0112

FAX 048-839-0539

印刷 光村印刷株式会社

展 示 史 料 一 覧

○は、埼玉県指定文化財

展 示 史 料 名	年 代	文書番号または所蔵者	備 考
1 〔秩父郡矢納村絵図〕	祐8(1695).6	川鍋家4	
2 差上申一札之事(山境論争二付)	文化13(1816).6	浅見家1681	
3 〔秩父一郡鹿絵図〕		森田家8069	
4 〔秩父郡太田部村絵図〕		新井家3311	
5 武州秩父郡太田部村御検地水帳	寛文2(1662).8.20	新井家238	
6 武州秩父郡太田部村御検地水帳	寛文2(1662).8.20	新井家239	
7 秩父郡八拾四ヶ村〔高帳〕	文化11(1814).正	新井家294	
8 〔秩父郡太田部村絵図〕	延享3(1746).7	新井家3295	
9 当年未年水損荒地巨細書上帳	安政6(1859).9	新井家189	
10 武蔵国秩父郡村々獵師鉄砲持主当時名前改帳	明和5(1768).3	新井家685	
11 差上ヶ申獵師鉄砲証文之事	明和9(1772).7	新井家2030	
12 為取替申議定証文之事(秩父郡太田部村近辺山林御買上木二付)	寛政7(1795).4	新井家2735	
13 日雇組請負証文之事(秩父郡太田部山林御買上木二付)	文政10(1827).12.16	新井家1961	
14 未歳太田部村御年貢請取事	寛永20(1643).12	新井家1614	
15 秩父郡芦ヶ窪村外六ヶ村櫨漆植付免除願	安政5(1858).9.10	森田家5950	
16 山漆之木書上ヶ帳	元文元(1736).10	山下氏収集23	
17 手形之事(秩父郡太田部村紙舟役二付)	寛文3(1663).10.8	新井家2213	
18 三峰山全図		野口家2008	
19 ち、ぶ三十四所順礼道案内絵図		武笠(昇)家264	
20 秩父順礼納経帳	文久3(1863).10	諸井家423	
21 納経帳(秩父三十四箇所巡礼)	文化7(1810).7	鬼久保家3382	
22 秩父三十四ヶ所順礼手控	安政5(1858).	林家2475	
23 秩父行記	安政3(1856).5	文書館収集96	
24 秩父道中記	嘉永元(1848)	野中家1605	
25 秩父三十四所〔御詠歌〕	嘉永7(1854)	会田家1855	
26 〔秩父一番四萬部寺御札〕(神社仏閣納経帳のうち)		福島(卓)家21	



27	三峰山道中記図絵 (参考写真)	明治4(1871)	宮代 弘氏所蔵	埼玉県立博物館提供
28	観音靈驗記のうち秩父順巡礼 (参考写真)		埼玉県立博物館所蔵	埼玉県立博物館提供
29	游龍園雑記 (三国史抜抄)		若林家	161
30	游龍園雑記 (仏説抜抄)		若林家	162
31	游龍園雑記 (史評抜粹)		若林家	163
32	游龍園雑記 (史記評他)		若林家	164
33	游龍園和門示言叙	文政11(1828).10	若林家	207
34	嘉陵先生墓銘		若林家	206
35	〔組合村絵図控〕	慶応4(1868).9	浅見家	1494
36	〔下阿久原村絵図〕		浅見家	1476
37	村明細帳	安政2(1855).3	松原家	39
38	村明細之帳	明和元年(1764).間12	浅見家	7
39	手形之事(見玉郡下阿久原村歳年貢上納二付)	寛文6(1666).9.21	浅見家	861
40	本庄宿田村本陣の門 (参考写真)			本庄市立歴史民俗資料館提供
41	本町類焼人男女老若下調帳	弘化3(1846).3	諸井家	67
42	岩鼻御陣屋へ中山道本庄宿預焼人之内極難儀之者夫食拝借願家数人別書上	弘化3(1846).3	諸井家	62
43	岩鼻御陣屋御囲切御拝借願	弘化3(1846).3	諸井家	63
44	英泉画/支那路ノ蝦村庄宿 神流川渡場 (参考写真)		埼玉県立博物館所蔵	埼玉県立博物館提供
45	神流川渡場の常夜灯 (参考写真)		大光寺所蔵	上里町教育委員会提供
46	高札 (神流川無賃渡二付)	天明元(1781)	戸谷家	--
47	乍恐以書付御訴訟奉申上候 (用水分水口塞候出入)	寛政5(1793).7	松原家	316
48	乍恐口上書ヲ以奉願上候 (七本木村細頭用水路水論二付)	寛政5(1793).8.17	松原家	304
49	差上申濟口証文之事	安政2(1855).12	松原家	460
50	備前堀絵図面 (写)	文政12(1829).8	野中家	8232
51	〔備前堀分限絵図〕		備前渠	36
52	〔備前堀引入口仁手地内堀立騒動一件〕	文政9(1826)	野中家	261
53	備前堀開復日記	文政10(1827)	備前渠	2
54	〔届書〕 (利根川堤切)	(年未詳)11.19	松原家	629
55	〔曾我豊後守方二面申渡候御届〕(利根川堤切疑患居宅打ちこわし)	(年未詳)11.19	松原家	302
56	〔十六ヶ村徒党一見豊後守申渡二付御用〕	(年未詳)11.19	松原家	569

57	広重画／木曾街道六十九次之内 新町		埼玉県立博物館所蔵 埼玉県立博物館提供
58	乍恐以書付御願申上候 (賀美郡四軒在家村代助郷差付免除願)	寛保3(1743). 間4	松原家1 8 8
59	乍恐以書付御訴訟申上候 (賀美郡四軒在家村助郷二付)	宝曆5(1755). 2	松原家4 4 2
60	差上申一札之事 (賀美郡四軒在家村他代助郷承知)	寛政5(1793). 2	松原家2 0 6
61	御伝馬御請書上帳	文久3(1863). 11	松原家1 1
62	村内明細帳	文政5(1822). 11	浅見家2 8
63	御伝馬御免除願一件	文政13(1830). 4	浅見家2 3
64	中山道増助郷一件	明和2(1764). 9	奥貫家3 6
65	口上書之事 (百姓掃村)	明和元(1764). 間12. 27	松原家5 2 1
66	覚 (中山道増助郷)	[明和元(1764)]. 間12. 28	松原家3 2 5
67	差上申一札之事 (慈訴取止め掃村請書)	[明和元(1764)]. 間12. 30	林家6 6 0 9
68	「関兵霊神」の百回忌供養塔 (参考写真)		岡本幸男氏撮影
69	米麦高値騒動記	万延2(1861). 3	新井家1 6 2
70	[上州鬼石の打ちこわし]	慶応2(1866). 5	浅見家2 1
71	武州飯能寄場打ちこわし一件筆記	慶応2(1866). 6	堀口(久)家2 0 9
72	徒党打毀二付三ヶ度御人数飯料其他諸入用帳	慶応4(1868). 3	諸井家1 9 6
73	打毀防御入用帳	慶応4(1868). 3	諸井家1 9 7
74	東海道御先鋒御総督府附会計方分御触書請印帳	慶応4(1868). 4	諸井家9 2
75	秩父新道に架けられたトラス橋 (道路改良ニ付願のうち)	明治16 (1883). 6	高野(周)家7 6
76	初代秩父橋の橋台と二代目秩父橋 (参考写真)		埼玉県立博物館提供
77	児玉秩父間新道寄付人夫全金額一戸当り摘要	明治19 (1886)	行政文書 明1 7 3 2
○78	北条家朱印状	酉〔永禄4〕(1561). 12. 3	逸見家1 9点1巻 卷子装
○79	乙千代判物	永禄5(1562)10. 10	逸見家2 "
○80	乙千代判物	(年未詳)12. 18	逸見家3 "
○81	北条氏邦朱印状	寅〔永禄9〕(1566). 9. 2	逸見家4 "
○82	北条氏邦朱印状	永禄12(1569). 9. 22	逸見家5 "
○83	北条氏邦判物	(年未詳)8. 10	逸見家6 "
○84	北条氏邦朱印状	い〔天正2〕(1574). 3. 20	逸見家7 "
○85	北条氏邦朱印状	丑〔永禄8〕(1565). 正. 15	逸見家8 "
○86	乙千代書状	永禄5(1562). 4. 2	逸見家9 "



87	北条氏邦朱印状（複製）	永禄7(1564). 6. 18	埼玉県立文書館所蔵	原史料、斎藤(古)家3輪装
88	北条氏邦朱印状（複製）	戊辰〔永禄11〕(1568). 12. 6	埼玉県立文書館所蔵	原史料、斎藤(古)家5輪装
89	安保光泰譲状（複製）	暦応3(1340). 正. 24	埼玉県立文書館所蔵	原史料、埼玉県立文書館所蔵 安保6 卷子装
90	安保光泰譲状（複製）	暦応3(1340). 8. 22	埼玉県立文書館所蔵	原史料、横浜市立大学図書館所蔵 卷子装
91	足利基氏軍勢催促状（複製）	康安2(1362). 9. 15	埼玉県立文書館所蔵	原史料、横浜市立大学図書館所蔵 輪装
92	足利持氏御判御教書（複製）	応永25(1418). 3. 28	埼玉県立文書館所蔵	原史料、横浜市立大学図書館所蔵 輪装
93	唐陸惠 明經典釈文注解伝述孔顔達周易正義抄書			若林家165
94	〔秩父郡太田部村絵図〕			新井家3297
95	殿様京地御見廻役御上京ニ付歩人足弍拾人御徒八人御雇給金割合帳	元治元年(1864). 6. 5		新井家329

- ☆ 逸見家文書の特別公開期間は、11月11日（火）から16日（日）までです。
- ☆ 会期中展示替えを行うため、史料によっては期間により展示されていない場合があります。
- ☆ 展示史料一覧のうち家別に記載してあるものは、当館所蔵または保管史料です。
- ☆ この展示史料一覧は、展示解説書中の展示史料一覧の訂正表も兼ねています。

#### 【秩父・児玉地方の文書訂正表】

・ 3 ページ	「山にいきる」	上田	→	上島
		下々田	→	下々島
	写真16キャプション	山漆之木書上帳	→	山漆之木書上ヶ帳
・ 6 ページ	写真45キャプション	常光寺	→	大光寺
・ 7 ページ	写真60キャプション	（児玉郡～）	→	（賀美郡～）
・ 8 ページ	打ちこわし解説文	鬼石町	→	鬼石村